

『伊豆の踊子』

- 真実に近い自伝的小説
  - 19歳で伊豆へ → 幼い踊り子「たみ」との思い出
  - 主人公
    - 孤児であるがゆえの歪んだ性格に嫌気
    - 川端自身の心情でもある



  - 体験に基づく細やかな心情描写や風景描写
- 純愛が癒す孤独な魂
  - 淡い恋



    - 主人公と14歳の踊り子
    - 少女の無邪気さに癒される
  - 印象的な場面
    - 宿 → 踊り子の純真さに安堵
    - 別れ → 悲しみと救われた感謝の念
- 身分を超えた心の交流
  - 身分違いの恋
    - ・エリート学生である主人公
    - ・蔑まれていた旅芸人一座
    - ⇒ 互いに人として認め合える関係
  - 出会い
    - 主人公の大きな転機
    - 先入観なき純粋な心の触れ合い
    - 人を癒し成長させる

